

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鷲園		
事業所名	グループホームうぐいす (うぐいす)		
所在地	岡山県津山市瓜生原331		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370300661&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれて四季折々の風景を感じる環境の中で、「自分らしさが継続できる暮らし・自信と生きがいの持てる暮らし・なじみの関係を築き支えあう暮らし」等、理念にあげ、さまざまなサインをキャッチし努力しています。他、事業所よりも広いフロアをいかし、日々の楽しみやレクリエーション・体操などによる健康維持に力を入れています。皆様、お部屋にこもられずにフロアに出てこれ、和気藹々に過ごされています。時に言い合いになったりもしますが、気がつくのが寄り添ってソファに座られ、パズル・ゲームをしたり、唄を唄う・洗濯物を畳む等、生き生き笑顔のある日々を送って頂けるよう、サポートする介護・援助を行っています。また行事ごとには、ご家族を交えての写真撮影、その時その時の、お姿を写真に残し、ご本人やご家族にも楽しい記憶を共有して頂けるように配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年・14年にそれぞれ開設され19年に統合された2ユニットが各々の歴史と特性を大切に保ちながら、日々「より良いケア」を目指して邁進し続けているグループホームである。年数の経過と共に利用者の状態の重度化が進み開設当初の様な活気は望めないが「今の瞬間を大切にしたい」、「人生の先輩として尊厳の念を忘れないように」等、管理者・職員はすべての業務に全力投球で頑張っている。利用者はどの人と相対してみてもその人らしさを失う事なく、それでいてお互いの思いやりや仲間意識も感じられ和気藹々の雰囲気や漂っている。家族とホームの間柄も他に類をあまり見ない程の絆が見られるし「食べる事を大切に」や「自立支援への取り組み」等も高く評価したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1程度ある				2. 数日に1程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内のよく見える場所に掲げて職員全員が理念を共有し実践に努力しています。管理者は、日々の中で実現に向けて指導しています。	掲げている理念は常日頃から事あるごとに確認し合ったり、管理者が具体的事例に照らし合わせ、かみ砕いたりしながら指導している。コミュニケーションのマナーを守る為の「スマイル表」もよく活用している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(小学校の運動会・ふれあい祭り)同事業所が主催する(納涼祭・演芸)等に参加し買物などされ社会交流が来ています。地域に向けての四季のホームたより配布。	街中のホームではないので隣近所の住民とのつき合いは不可能だが、敷地内の法人グループや訪問してくれるボランティアの人達との交流、百円市等への買物、園児・児童・学生等、ホーム独自の交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族、地域推進会議等で認知症に対する話しをしています。研修・講演等での、いい情報は話させて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題、要望を検討し、サービス向上に努めています。その中で、ご家族の多数参加の方が意見が言いやすい、盛り上がる等で沢山の参加えています。	家族は順次参加出来る様連絡しているし、介護保険室職員も毎回参加して、確実に2ヶ月に1回実施している。ホームの現状や活動状況の報告、意義深い意見交換の様子が議事録からよく理解出来た。	会議の内容はホームの運営に関わるものや、事故報告等のリスク面の報告や相談、波及効果の多い意見交換も見られるので、こういった情報は家族全員が共有した方が良いと思う。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会に職員参加。またGHの役員をさせて頂いたことで市に赴く事増え相談情報を頂いています。運営推進会議で市の担当者が来られる事でホームの事情やケアの取り組みを伝えられています。	行政の担当者が運営推進会議に毎回必ず参加しているので、ホームの現状もよく把握して貰えているし、相談もし易い。運営推進会議の場では指導助言もあり、日常的な協力関係も理想的と思われる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会・セミナー等参加正しく認識するよう日々努力し内容についての話し合い等行っています。日中は玄関、窓を解放しています。出られる方には一緒に付き添っています。	玄関や多くの出入り口を開けているので、職員は常に利用者の動きに目配りをしている。身体拘束禁止の対象となるような事例はないが、研修その他で資料や情報を得る度に話し合ったり勉強したりしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、申し送り、ミーティング等に話し合い、職員への理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会、情報などで職員は概要を理解出来ており、日々努めています。当方では現在必要とされる方はいないが、今後必要な方が入れば活用できるよう支援していきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明し同意を得ています。また契約内容に変更があれば再度同意の取り直しもしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・ご意見箱の設置を行っています。面会時、電話連絡時、行事参加等に、日常の様子をご家族にお話しし相談をしながら行なっています。ご利用者からは、日々の会話から聴く努力をしています。	運営推進会議にはその都度3～4名の家族の出席が得られる様順次連絡する工夫がある。出席した家族から「家族同士同じ話が出来て嬉しい」「重度化した時は？」等の意見や質問が見られた。	運営推進会議に全家族が順次参加する方法はとても良いと思う。家族の参加が最も多い行事の後にも「家族会」を実施し、運営推進会議の集約をしたり、意見交換や質問の場を作ってみてはどうか。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時やミーティングで意見、提案を聴き、話し合いを行い、反映させています。	ユニットによって職員の意見や要望・提案の反映のさせ方が多少異なるが、それぞれによく話し合い、情報を共有し合い、同じ方向を向いて、より良いケアへの取り組みをしている。	個々の職員の個性や力量が、今以上に表に出る工夫を試してみるのも、実力をつける手法と思う。「〇〇さんの提案」として短期目標を設定し、評価し合ってみるのも良い。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各事業所会議にて、日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況を把握し各自は向上心を持って、働けるよう配慮、対応しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会へ参加し、各自の向上心と、資質の向上に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの介護を考える会や資質向上セミナーを通じて勉強会に参加し、ネットワーク作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、これまでの生活状況、介護の情報等把握し要望を聞いています。又 入所前にホーム見学していただき関係作りに努め安心して来ていただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡したり、相談にのるなど努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に当サービスを利用することが適切がどうかも検討させていただいています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせた家事等を職員と一緒にしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際、ご家族に来ていただき食事づくりに参加等で家庭を感じていただく。面会時に時間をとっていただき、ご家族と一緒に行事の作品作りを楽しんで頂く。レクリエーションをして頂く等、喜んで頂いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出される方には元気に生活されている様子を写真にとり送れるよう援助する。地域の食料店に付き添い買い物に出ています。利用者の生活歴に合わせたコミュニケーションを話題豊富にし皆で笑顔しています。	今は朽ち果てているが生まれた地を訪問したり、皆とお出かけの時、00さんの育った家に行ってみる等、本人の思いを出来る限り叶えてあげるようにしている。今後利用者の重度化も進むと思うので、家族にも協力をお願いしたい。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、互いに馴染みの関係となり、会話が出来るよう工夫しています。仲の良い利用者同士の席には配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後にご家族から電話を頂いたり、こちらからも、今の状況をお尋ねしたり立ち寄れる方には、いっています。相談があれば対応しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めています。言葉で聴くと「だいじょうぶ・なんでもない・ええ・わからん」とニーズの把握は難しいが日常の様子、表情等から汲み取るよう努力しています。	「〇〇さん〇〇流の先生。ホームは何時も花で一杯」「〇〇さんの詠みし歌」「頑張って作ったご自慢の作」等々のたより、絵を描く喜びを一杯支援している状況。これらからも本人の思いを引き出して生き生きとした暮らしに繋いでいることが判る。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時の聞き取りと、ご家族からの情報は職員間で共有しケアに生かしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等で一人ひとりを把握し理解するよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、申し送り時に、職員間で意見交換、ケアの統一まで話あったり、面会時に日常の様子をご家族にお話しし、相談しながら行っています。	一人ひとりの利用者の今を職員全員でしっかり見つめ、その都度よく話し合っている。サービス実績のチェックやモニタリングも綿密で、家族とも例えば具体的な排泄支援の状況に至るまでよく話し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご本人ご家族の状況に合わせて出来る限り支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2ヶ月に一回の理容サービスを活用しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診体制を整えており、月4回来所、何かあれば相談し対応して頂いています。通院は原則としてご家族に依頼しています。各自、主治医をお持ちの方はご家族が、定期受診にお連れして下さいませ。	ホームの協力医は定期的な往診及び夜間の対応も可能であるだけでなく、利用者の状態への理解も深く安心だ。ホームも医療体制は重視しており、個別の医療連携ファイルにそれぞれの人の情報や対応が詳しく記してある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の訪問を週一回受けています。それ以外何かあればすぐ様子を見に来て頂け、情報や状況変化を伝え相談して適切な対応が出来るよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護添書、又は口頭にて、情報提供を行い、随時、連絡を取り合っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時説明しています。現在当ホームにも日に日に、その傾向は強まっています。必要に応じて、ご家族と話し合いの場をもうけ、出来ることを説明しながら本人が穏やかに過ごせるよう努めています。	愛夢の郷ユニットで今までに1名の看とりを経験したが、今後も安易な考えで取り組む事のない様、その都度協力体制を十分確認しながら慎重に検討していく予定である。ホームの方針は家族には契約時を始めとして説明を続けてきたが、運営推進会議等でも説明を続け、理解を得る努力を重ねていきたい。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを元に勉強会や初期対応の訓練を行い緊急時に備えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回(避難・消火)実施しています。運営推進会議で地域の方に協力をお願いしています。連絡網やマニュアルも作成し、職員間で共有しています。	ホームは平屋で出入り口も多いので問題は少ないと思われるが、火災訓練は夜間を想定して夜勤者が2人組となり避難・誘導の訓練を実施。消防署の指導や消火器の取り扱いの訓練もして貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、我が身にふりかえ考え、尊厳をきずつけないよう、声かけ、行動が行えるよう努めています。	身体の安全や清潔保持に全く無頓着だった人の生活習慣を、その人の尊厳を保ちながら少しずつ改善してきた例を聞いた。今日の昼食時にも入れ歯を入れるのを嫌がる人に対して、その人のその時の思いを大切に粘り強い対応を見た。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる環境に努め、表情や仕草を読み取るように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけています。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、思うように過ごされる環境を整えています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向を合わせて衣服の選択、整容等、介助支援を行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの状態に応じた出来る事をして頂いています。野菜の筋とり、お膳の片付け、テーブル拭きなど、又 できたら自力で召し上がって頂けるよう、お腕を大きく軽いものにするなど工夫を行っています。	三度の食事の中でも最も重視している昼食という事だが、鉢の数も多く、季節の野菜・魚・汁物等、種類も豊富で分量も結構ある。「美味しいなあ。又大きくなりました」と言いながら、皆さん殆どの人が完食していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックしています。一人ひとりの状態にあった食事形態にしています。お茶の時間は種類を変え提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、行っています。義歯洗浄も定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け把握に努めて、トイレ誘導しています。またソワソワされる方のタイミングを窺いながら誘導しています。日中はほとんど濡れないですむ場合もあります。	人としての尊厳を考える時、「トイレで自分の力で排泄を」は、どんな状況になっても大切にしようとしている。排泄パターンの記録を職員間でよく共有し、プライバシーには気をつけながら、さり気ない誘導を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と繊維質の多い食物の提供に努めています。排泄チェック表記入し、Drと相談し排便コントロールを行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後からしてます。体調や気分に応じて入浴されない方が、たまにある程度で、入浴を楽しみにされています。	午後のお茶の時間の後から入浴タイムとなるが「希望者は毎日」というのもこのホームの頑張っているところだろう。中には「家に帰って入る」という拒否の人もあるが、職員のおの手この手の誘い掛けで、何とか入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、休息を取り入れた日中の活性化を行い、安眠できるよう工夫しています。何度も起きてこられる方のコミュニケーションも行っていきます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している、薬が分かるように、ファイルに薬の説明書を綴じて職員が見ることが出来るようにしています。服薬支援、状態の変化の確認に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、ゲーム、絵や作品づくり、手紙等の支援、仲良しの世話を役かれるのを自分の役割と思われている方、洗濯物干し・洗濯物たたみ、テーブル拭き等できそうな事は一緒に行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体的状況から日常的な外出はしにくくなっていますが、支援に努めています。時々職員と買い物に出かけたり、ご家族と外食も楽しめています。ホームの立地廻りでも四季折々が楽しめて散歩も外出気分になっています。	会議録の中に職員からの提案で「重度化が進んでいる現在、マンツーマンでドライブ等」が見られた。敷地内の散歩や青空市やスーパーへの買い物等、良い季節ともなれば外へ出掛けるチャンスも増えるだろう。	利用者の状態の重度化が今後も予測される状況だ。揃って出掛ける行事も、マンツーマンのお出掛けも、家族の協力を今まで以上にお願いしたい。家族とホームの絆がとてもしっかりしているので、実現可能と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的状況により関心が見られない、お金の価値感が解らない、買い物は職員に委ねる等で日常的にはできない状態です。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取り次ぎ、手紙を投函したり、声かけでやってみようと言われる方には用意し支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食卓テーブルなどに花を飾り目を楽しませています。壁には、一緒に行った季節に応じた作品や写真を飾ることで季節感や適度な刺激をだしています。	これ程ゆったりと広い共有空間のあるホームはあまり見た事がない。居場所も複数設置されているが、殆ど全員連れ立つように移動しているのが微笑ましい。職員の上手なリードでお喋りや歌・ゲーム等で笑顔があふれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファはほぼ座る場所が決まっており、ご利用者同士のなじみの関係で落ち着き過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご自分の写真を飾る、使用していた寝具、小物の持参等、入られたら自分の部屋だと思われています。	特にうぐいすのユニットでは、家族の思い出が一杯伝わって来る様な居室になっていて本人の生き方や今までの生活の様子が窺える所もある。入居後に絵を始めた00さんは専用の机・イスを置きその下にはびっしりと書かれた日誌もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に解りやすく表示されています。身体状態に合わせて、自分の力をいかして動けるように工夫しています。		